

箱根湿生花園の 花だより

2018年9月1日 発行



『仙石原すすき祭り 2018』のお知らせ

箱根湿生花園を会場に、仙石原すすき祭りが開催されます。
 ・旅館やホテルのワンコイングルメ ・芸者BAR
 ・箱根湿生花園のライトアップ ・花火 1000 発
 などイベント盛りだくさん！皆様お誘いのうえ、ぜひお越しください。
 日時：9/24（月・祝） 15：00～20：00
 場所：箱根湿生花園 第1駐車場

キレンゲショウマ
 「黄蓮華升麻」(ユキノシタ科)
 本州(紀伊半島)～九州の深山の林内にまれに生える多年草。黄色の筒状花を横向きに咲かせる。名前の由来はレンゲショウマに似て、花が黄色ということから。



各地で厳しい残暑が続いているようですが、箱根仙石原では朝晩は涼しくなり、過ごしやすくなってきました。園内ではワレモコウやオミナエシなどの初秋の花が見頃を迎えています。ゆっくり木道を歩きながら、秋の訪れを感じてみてはいかがでしょうか？また、9/24（月・祝）の秋分の日には、箱根湿生花園を会場に「仙石原すすき祭り 2018」も開催されます！



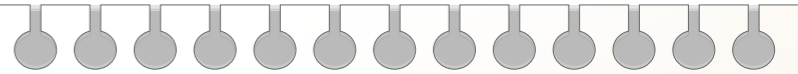
Pick Up ワレモコウ 「吾木香」 バラ科

ワレモコウは、北海道～九州の山野の日当たりのよい草地に生える多年草です。8月～10月頃に暗赤紫色の花を上から下へと咲かせます。一つ一つの花に花びらは無く、花びらに見えるものはガクです。名前の由来は諸説ありますが、「吾木香」は日本の木香の意味で、根がインド北部原産の木香に似ているからといわれています。乾燥した根茎は地榆と呼ばれ、止血剤として古くから使われてきました。学名「*Sanguisorba officinalis*」は血を止める薬草の意味です。別名は「ダンゴバナ」と呼ばれ、お月見には欠かせません。
 箱根湿生花園では、ススキ草原区や植生復元区などで観察することができます。風に揺れる草姿に趣を感じさせるワレモコウをぜひお楽しみください。



スズムシバナ
 「鈴虫花」(キツネノゴマ科)
 本州(近畿地方以西)～九州の山地の木陰に生える多年草。低層湿原区で淡紫色や白色の花をたくさん咲かせています。

(2018年8月30日現在)



File 10 イチモンジセセリ 鱗翅目セセリチョウ科

花を見ていると花粉や蜜を求めさまざまな昆虫が訪れます。今回はこの時期、多くの花に群がる様子を観察できるイチモンジセセリをご紹介します。イチモンジセセリは翅の色も地味で素早く飛ぶため、一見すると「ガ」の仲間に見えてしまいがちですが、れっきとしたチョウの仲間です。幼虫はススキなどのイネ科植物を食草とし、草原で生活します。似た種類でオオチャバネセセリなど様々な種がありますが、本種は名前の由来にもなっている後翅の4つの白い斑点が一直線になっていることで識別できます。花に止まっている時は警戒心が薄いので、ぜひ間近で観察してみてください。



Botanical Gallery



アサマフウロ
 本州(中部地方)の湿った草地に生える多年草。名前の由来は、浅間高原周辺に多いことから。



サワヒヨドリ
 日本全土の山野の日当たりのよい湿地に生える多年草。フジバカマと同じ仲間、園内各所で観察することができる。



サワシロギク
 北海道～九州の日当たりのよい湿地に生える多年草。舌状花ははじめは白色だが、しだいに紅紫色を帯びる。



マツムシソウ
 北海道～九州の山地の草原に生える越年草。名前の由来は諸説あるが、マツムシが鳴くころに開花するからともいわれる。



ホソバシロソウ
 本州～九州の山地の林内に生える多年草。名前の由来は、葉のつけ根にシロ状の毛があり、シロソウよりも葉の幅が細いことから。



タムラソウ
 本州～九州の山地の草原などに生える多年草。アザミの花に似ているが、アザミ属ではないため、刺はない。



オミナエシ 「女郎花」(オミナエシ科)
 日本全土の日当たりのよい山野の草地に生える多年草。秋の七草のひとつ。「万葉集」などで詠まれており、初秋の箱根湿生花園を彩る花のひとつ。

ご利用案内

通常営業 9：00～17：00(最終入園 16：30)
 大人(中学生以上) 700円 小人(小学生) 400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>